

2026 トライアスロン横浜大会 レスキュー支援報告

今年も昨年に続き、5月16日(土)、17日(日)に横浜山下公園で「2026世界トライアスロンシリーズ横浜大会」が開催されました。JUDFは17日に行われたエイジクラス、スイム部門でのレスキュー支援を実施しました。



今大会もおおよそ 1,800 名もの参加者がおり、会場の山下公園周辺では物販コーナーやキッチンカーなどが軒を連ね、大変多くの出場選手や来場客でにぎわっていました。

大会当日は、若干の風はあったものの、好天に恵まれ気温もかなり上がりました。海の方は海面水温では 22℃前後ありましたが、数日前の雨の影響か、もしくは潮汐の影響か、流木などの浮遊物がけっこう多い印象でした。



さて、大会の海上にはライフセーバーが数多く配置されています。さらにレスキュー艇や水上オートバイも万々に備えてスタンバイしています。不運にも沈水してしまった選手がいた場合、彼らのみでは救助しきれないことから、我われダイバーチームが配置されています。

これまでは、スイムコースに沿う形で、ダイバーが水面監視を行っていましたが、二年前よりレスキュー態勢の見直しがなされ、一部水面監視を残しつつ、ダイバーはレスキュー艇に乗船、あるいは陸揚げ用の栈橋で待機・監視する、というスタイルになりました。これで救助が必要な事態が発生した際には、いち早く現場に向かえるようになりました。



レスキュー艇

緊急時の統括を担うレスキュー艇にもダイバーが乗船して、いつでも対応できるようにしています。

PWC(水上オートバイ)

リタイヤなどで搬送されてきた選手を、栈橋で陸揚げします。ダイバーも必要に応じて協力します。



競技中の様子



水面監視

競技中は、陸からの監視はもちろんですが、海上コース外周はレスキュー艇や PWC の航路になるので、ダイバーは安全のため少し離れた水面で監視します。ダイバーだけポツン、としているようですが、監視が手薄になりがちエリアのため、実は重要なポジションです！



というわけで、今大会も大きな事故が発生することもなく、無事に終了することができました。陸上と水中の温度差もあってか、足のツリや低体温が原因でのリタイヤが何名か見られました。日頃から相当に鍛錬を重ねても、いざ自然環境の中に身を置くと、思わぬトラブルがしばしば発生するものです。われわれダイバーも、自信が過信にならないよう、常に気を引き締めておくようにしたいですね。

早朝より、大会支援にご参加くださった理事ならびにメンバーの皆さん、今回もご協力いただき大変ありがとうございました！



報告： E-373 田嶋